

# 『経済研究』原稿作成マニュアル(学外者向け)

2002年1月 一橋大学経済研究所『経済研究』編集部

論文の掲載が決定し最終原稿を用意する際には、ハードコピー1部、およびフロッピー・ディスクの両方を提出してください。図表は1枚ずつ別紙に描き、図はそのまま写真原稿として使用可能な原図を添付してください。

校正段階(執筆者の校正は原則として初校のみ)での修正は、印刷上の誤りや不備の訂正のみとします。校正段階で大幅に内容を変更する場合、要した費用は執筆者負担となります。

## 目次

1. 原稿の順番	1
2. 基本構成	2
3. 文章表記	2
4. 数字の表記	3
5. 数式	3
6. 注の表記	4
7. 図・表の作成	4
8. 参考文献	4-5
9. 文献表記の事例	5-7

## 1. 原稿の順番

原稿は、

- ①表紙(題名・氏名・所属・連絡先)[本文とは別に作成]
- ②日本語要旨(400字以内)[英文の論文は除く]
- ③本文(タイトル・氏名含む)
- ④文末注
- ⑤参考文献
- ⑥図・表
- ⑦英文要旨(100語程度)

の順序で 別々に作成すること。

※図、表は別紙に1枚ずつ作成する(「7. 図・表の作成」参照)。

※日本語要旨・英文要旨は、本文とは別に作成する(別紙「日本語要旨・英文要旨の作成」参照)。

## 2 . 基本構成

節・項は、それぞれに下記のシステムでナンバーをふる。(ローマ数字の使用や、数字のない節立ては避ける。) (例)

論文タイトル

氏名

日本語要旨

本文

1. はじめに

2. 基本モデル

3. 実証分析

3.1 推定結果

3.1.1 ———

3.1.2 ———

3.2 推定結果の解釈

3.2.1 ———

3.2.2 ———

4. おわりに

(著者所属)

文末注

参考文献

※図、表は、それぞれに通し番号を付けて本文中に位置を示すこと。その場合、節毎的通し番号は避ける。

図1. タイトル

図2. タイトル

表1. タイトル

表2. タイトル

## 3 . 文章表記

(1) 横書き、新かなづかい、新字体使用を原則とする。当用漢字を中心とし、むずかしい漢字は避ける。

(2) 句読点はカンマ (,) とピリオド (.) とを併用する。

(3) 傍点は当該する文字の上に打つ。

(4) 和文・漢文では、引用文には「 」や『 』を使用し、クォーテーション・マーク( ‘ ’ や “ ” )は避ける。

## 4 . 数字の表記

(1) 原則として算用数字を使用する。和数字の使用は熟語・成句・固有名詞に限る。

(例1) 1つ, 1点, 1人当り3g, 第2に, 第2次世界大戦, 前2者, 2通り, 4捨5入, 5・15事件,

16～7世紀, 3・4日

(例2) 一定, 均一, 一致, 一般, 一応, 一義的

(例3) 第1四半世紀, 第2四半期

(2) ただし, 以下は上記(1)の例外とする。

\* 概数にあつては, 和数字を用いる。

(例4) 数十日間, 数百キログラム, 百数十ページ, 何千人

\* 化合物の名称には和数字を用いる。

(例5) 一酸化炭素, 四三酸化鉄

(3) 大きな数字を使うときは, 兆・億・万の単位語を入れた方が読みやすい(この際は, 位取りカンマは使用しない)。

(例6) 38 億 8823 万人, 7 万 6000 人

(4) O(オー)と0(ゼロ), I(エル)と1(イチ)は, 区別が付きにくい活字を使用した場合のみ, その区別を欄外に明示すること。

## 5 . 数式

(1) 原則として変数はイタリック表示とする。

(例)  $x, y, z, X, Y, Z$

(2) ベクトルはゴシック表示にする。

(例)  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}; \mathbf{A}, \mathbf{B}, \mathbf{C}$

(3) 数式を1行に詰めすぎないようにする。

(4) 複雑な添え字(suffix)はできるだけ避ける。

## 6 . 注

注は文末にまとめる。また内容注のみとし、引用箇所を表示は注ではなく本文中で行う。

(例) 「……」というのが、清川雪彦の見解である(清川(1997), p.36)。

## 7 . 図・表の作成

(1) 図表は、本文中に入る箇所を明示すること。

(2) 図表は、本文とは別途に、一つずつの図・表としてプリントアウトすること。

(3) 最終稿の提出時に以下の二つを提出すること：

A. (必須)スキャン用のハードコピー：縮小しても線の区別や文字が問題なく読めるような、できるだけ鮮明なプリントアウト(レーザープリンタで印刷したもの)。

色の濃淡や、網かけによる区別は、スキャン・縮小すると判別しにくくなる場合が多いので、どうしても必要な場合は、スキャン用に網掛け等を一切していないスキャン用のハードコピーと、実際に掲載される図をイメージしたプリントアウトの両方を提出すること。後者を参考にして、印刷所のほうで前者を修正する。

B. (可能な限り提出)図表の Electronic Version のファイル。エクセル, jpeg, bitmap 等。

## 8 . 参考文献

(1) 参考文献(通常の出版物, 雑誌論文)は, 論文の最後に, 文末注に続けて, 著者氏名のアルファベット順のリストの形で作成する(注での文献表示は避ける。ただし統計報告書・新聞・政府文書等はこの限りではない)。文献リストには通し番号はつけない。

(2) 文献は, 日本語, 英語・独語・仏語, ロシア語, 中国語, その他にグループ分けして(それぞれ著者氏名のアルファベット順)整理すること。

(例) 参考文献

鈴村興太郎 (1998) 「機能・福祉・潜在能力—センの規範的経済学の基礎概念—」

『経済研究』第 49 巻, 第 3 号, pp.193-203.

Harvey, Andrew C. (1981) *The Econometric Analysis of Time Series*, Oxford: Philip Allan.

Leontief, Wassily (1974) "Structure of the World Economy," *American Economic Review*,  
Vol.64, No.6, pp.823-834.

(3) 書物名・雑誌名は、日本語・中国語等の場合は『 』, ヨーロッパ語ではイタリック. ロシア語文献は、ローマ字表記も可.

(4) 論文名は、日本語・中国語等の場合は「 」, ヨーロッパ語では“ ”で囲む.

(5) 文献は次の順序で表記する. 詳細は「11.文献表記の事例」を参照すること.

単行本: 著者(編者)名, 発行年, 書物名(副題とも), 発行地, 発行所.

論文: 著者名, 発行年, 論文名, 収録書物の著者(編者)名, 収録書物名(または雑誌名),  
巻数, 号数, ページ数.

ただし, 発行地, 発行所, 巻数, 号数, 発行年月のうち, 不必要なもの—例えば《東京: 岩波書店》は単に《岩波書店》として差し支えない—は省いてもかまわない. 発行地や発行所が2箇所以上の場合, 最初に表示されている発行地とこれに対応している発行所を記入する.

(6) 本文中に引用する場合は, 名字のあとに発表年を丸カッコ( )で囲って入れる(各文献には通し番号をつけない).

(例) 西村(1997)

Minami and Wenran Jiang (1997)

## 9 . 文献表記の事例

(1) 邦文文献

《論文》

西村可明(1997)「旧ソ連・東欧諸国をめぐる経済関係の動向」『経済研究』第 48 巻第 1 号,  
pp.1-14.

鈴木興太郎(1997)「《新》厚生経済学と社会的選択」『経済研究』第 48 巻第 1 号, pp.15-24.

西沢 保(1997)「歴史学派の波及と変容—労働問題をめぐるマーシャルと福田徳三—」『経済研究』第 49 巻

第 1 号, pp.13-26.

《著書・編著》

斎藤 修(1998)『賃金と労働と生活水準』岩波書店.

高山憲之・有田富美子(1996)『貯蓄と資産形成—家計資産のマイクロデータ分析—』岩波書店.

※同一の著者の文献を複数引用する場合, 2番目以降の文献の氏名の表記は「———」とす

る。

(2) 英文文献

《論文》

- Hubbard, R. Glenn, Anli K. Kashyap and Toni M. Whited (1995) "Internal Finance and Firm Investment," *Journal of Money, Credit, and Banking*, Vol. 27, No.3, pp.683-701.
- Kwan S. Kim (1997) "The Political Economy of Income Inequality in the United States," *The Economic Review*, Vol.48, No.2, pp.113-127.
- Levich, Richard M. (1985) "Empirical Studies of Exchange Rates: Price Behavior, Rate Determination and Market Efficiency," in Jones, R. W. and Kenen P. B. eds., *Handbook of International Economics*, Vol.2, Amsterdam: North-Holland, pp.979-1040.
- Ryoshin Minami and Wenran Jiang (1997) "Income Distribution and Sociopolitical Transformations in Japan," *The Economic Review*, Vol. 48, No.2, pp.97-112.

《著書・共著》

- Jonson, Arthur M. and Supple, B. E. (1976) *Boston Capitalists and Western Railroads, A Study in the Nineteenth-Century Railroad Investment Process* (Harvard Studies in Business History 23), Cambridge, Mass.: Harvard University Press, 1967.
- Matsuda Yoshiro and Arita Fumiko (1996) *Behind State Company Nexus: One and Half Century Experience of Japanese Economic Development in a Statistical Mirror*, Tokyo: Maruzen Co., Ltd.
- Mizoguchi Toshiyuki (1995) *Reforms of Statistical System under Socio-Economic Changes: Overview of Statistical Data in Japan*, Tokyo: Maruzen Co., Ltd.

(3) 独文文献

《論文》

- Bortkiewicz, Ladislaus v.(1906) "Wertrechnung und Preisrechnung im Marxschen System," *Archiv fur Sozialwissenschaft und Sozialpolitik*, Bd. 23, SS. xx-yy.
- Puhle, Hans - j.(1973) "Populismus, Krise und New Deal. Zum Verhaltnis von agrarischer Demokratie und organisiertem Sub-ventionismus in der Zwischenkriegszeit," Winkler, Heinrich A. hrsg., *Die grose Krise in Amerika; Vergleichende Studien zur politischen Sozialgeschichte 1929-39*, Gottingen.

《著書》

- Gerstenberger, Heide (1973) *Zur Politischen Okonomie der burgerlichen Gesellschaft. Die historischen Bedingungen ihrer Konstitution in den USA*, Frankfurt am Main.

(4) 仏文文献

《論文》

- Wolf, Gerhard(1989) "Un fils oublie de l'Ardeche: Scipion de Chambonas, ministre des Affaires etrangeres," *dan La Revolution en Ardeche*.

Roger, Patrick(1991) "Options et completudes des marches," *Revue economique*, No.5, septembre, pp.787-800.

《著書》

Welvert, Eugene(1816) *La Saisie des papiers du Conventiennel Courtois*, Paris.

(5) 露文文献・中国語文献

※ロシア語文献が含まれる場合, ロシア語文献は, 手書きではなく, タイプまたはワープロで作成する.

※ロシア語と中国語文献の詳細については, 編集部まで直接問い合わせること.